

We Are Astra! 第1回実行委員会 会議録

日時:令和7年(2025年)5月29日(木)

10:00~11:30

場所:長野県庁8階教育委員会室

1 開会の言葉(田中義務教育指導係長)

実行委員会に先立ちまして一点ご連絡いたします。本日の会議録およびディスカッションの様子は、後日、県教育委員会のホームページに掲載いたします。掲載にあたりご配慮が必要な点がございましたら、お申し出ください。

本日はご多用の中、「We Are Astra!」第1回実行委員会にご参加いただき、誠にありがとうございます。はじめに、阿部知事よりご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

2 阿部知事挨拶

皆さん、おはようございます。

「We Are Astra!」実行委員会の第1回ということで、一言ご挨拶申し上げます。お集まりいただいた皆様、それぞれお忙しい中ご参加いただき、ありがとうございます。また、日頃から長野県の人材育成、教育にそれぞれのお立場からご協力いただいていることに深く感謝申し上げます。

県知事としてつくづく感じるのは、これからの人材育成が長野県の将来にとって最も重要であるということです。今、社会経済は大きな曲がり角にあり、人口は増加の状況が反転して急激な減少局面に入り、経済も自由市場が広がる中で、違うベクトルにいきかかっている状況です。

私たちもAIを活用・AIと対話し、学びの在り方や学習の方法が大きく変化している、あるいは変化しなければならない局面に来ていると感じています。私たち行政としても、学校教育を今の時代を踏まえ未来を見据えて変えていく必要があると思っています。

高等学校については、高校再編と合わせて特色ある教育を進めていきます。義務教育学校については市町村立であります。市町村や各校長、学校関係者に協力いただきながら、TOCO-TONの推進により子供たちがいきいきと学校生活を送れるような学校づくりに取り組んでいきます。

一方で、経済界の皆様とお話すると、人材の確保が最大の課題であり、特にこれからの産業を担う人材をどう育て、どう確保するかが、長野県の産業発展にとって極めて重要な課題だと思っています。本日、多様な分野の方々が集まっていること自体が画期的であり、学校教育・公教育の在り方についても、皆様のご意見をいただきながら、教育委員会を中心に

変革をしていきたいと考えています。また、産学官の力を結集して、学校外でも子供たちの学びの場をどう確保し、育成・成長をどう支えていくかを是非共に考えていきたいと考えています。

長野県は「教育県」として知られてきました。県民の意識は薄れているかもしれませんが、今でも県外に行くと、県外では「学びの県」と言っていただくことが多いです。これは注目されている証であり、子供たちや社会経済のためにも、人材育成をしっかりと進めていかなければいけないと思っています。

皆様には、新しい人材育成の育て方・在り方について知恵を出し合い、良い仕組みを作っていただければありがたいと思っています。長野県で生まれ育った子供たちが、将来の担い手・創り手として元気に活躍できる社会を、皆さんと一緒に作っていききたいと願っていますので、是非ご協力いただければと思います。この取り組みに限らず、「学びの県づくり」を一生懸命進めてまいります。今後とも、色々な分野で人材育成・教育へのご支援をお願い申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 事業説明（一色学びの改革支援課長）

皆様こんにちは。本日はご多用の中、「We Are Astra!」第1回実行委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。教育委員会事務局 学びの改革支援課長の一色保典でございます。

はじめに、皆様に事前にお配りした「実行委員会規約」についてご確認させていただきます。特にご意見がなかったため、本日よりこの案を正式な規約として取り扱わせていただきます。

続いて、本事業の目的について、モニターを用いてご説明いたします。「We Are Astra!」の概要と目的は、経済・産業・教育等を支える県内の多くの団体の皆様と連携し、未来の長野を担う人材を育てていくこと、の一点でございます。

本事業は、以下の三つの観点を軸に構成されています。一つ目はグローバルな視点。子供たちが「世界の中の長野県」という視点を持ち、国際的な課題にも目を向ける体験を取り入れていきます。二つ目は問題発見・解決能力。地域や社会の中で課題を見付け、自ら考え行動する力を育てていきたい。三つ目はコミュニケーション能力。英語等を用いて、他者と積極的に関わる姿勢や力を身に付けてほしいと考えています。これらを通じて、子供たちが未来を切り拓く力を育むプログラムを、皆様と共に作っていききたいと考えています。

年間のプログラム例としては、これはあくまで一例でございます。長野県の自然や産業を五感で学ぶ体験、海外での英語によるインタビューやディスカッションなど、子供たちが本物に触れる機会を提供していきたいと考えています。

年間プログラムですけれども、あくまで一例ですので、本日ご参加の皆様と一緒に長野県の未来を切り拓く児童生徒に必要な力や体験してほしいことについて、よりよいプログラムに向けてご意見を頂戴していきたいと考えております。それでは、三名の方にお声を頂戴できればと思っています。まずロータリークラブの白鳥様、お願いできますでしょうか。

(白鳥委員)

ロータリークラブのガバナーの白鳥と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

ロータリークラブは世界最大の奉仕団体で、世界に約 120 万人、日本に約 8 万人、長野県には約 1800 人の会員がいます。主に経営者や会計士などが活動しております。少しでも世界が平和で豊かになるように、みんなで考え活動している団体でございます。本日お呼びいただいたのは、“子供たちの育成”ということだと思います。私たちもいくつかの交流事業、青少年交流事業を行っております。海外からの留学生を受け入れロータリーのメンバーの所にホームステイしながら高校に通うプログラムや、米山奨学生としてアジアから多くの子供たちを一年間以上お呼びしております。こちらにつきましては、信州大学や長野県立大学等に留学しておりまして、その面倒を見るということを行っています。

今回の Astra!プロジェクトでは、小・中学生 15 名が対象と伺っています。我々ロータリークラブでも活動をしておりますと、特に低学年の子供たちが課題かなと思っております。不登校、教育格差、所得格差といった課題・問題に直面しており、子供食堂の支援から始まって様々な支援をさせていただいています。

このプロジェクトにおいても、私たちがお役に立てることがいくつかあるかなと思い参加させていただいています。将来のリーダーという観点からも、教育の重要性を再認識しています。

思い起こせば 1868 年に日本は江戸城が無血開城という世界には無いことが起こったわけです。その後 1872 年に、新橋から汽車が走ったということで、これはどういうことかという、たった 4 年でイノベーションが起こったということです。イノベーションが起こる最初の所というのは、松陰先生もそうですが、教育です。国の中にそういうものが出来上がっていて一気に開花していくわけですけれども、ポテンシャルをためておいてトリガーが引かれたら一気に行く、ということです。小・中学校の子供たちが海外で学び、さまざまな経験を通じて得るものは計り知れませんので、微力ながらロータリークラブとしても協力させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

(聲山委員)

経営者協会の聲山でございます。よろしくお願いいたします。

経営者協会は現在 610 社ほどの経営者の集まりでございますが、一番の悩み事は人材というよりも、人そのものが集まらなくて困っているということでございます。採用しても辞退者が多く都市部の企業に流れてしまうケースが多く、予定人数が集まらないという悩みを多くの企業が抱えています。人材というよりも人の数が集まらないということで悩みが多いと聞いております。

最終的に企業や地域を支えるのは人材です。育っていく人がいかにいるかということになります。小学生や中学生の段階から、将来を見据えて基礎を育てることが重要だと考えています。学生と企業が知り合う機会が少ない現状を踏まえ、早い段階からの関わりが良い結果につながると期待しています。

（桂本委員）

県小学校長会長の桂本和弘と申します。小学校の立場から発言させていただきますと、「社会に開かれた教育課程」の具現化を目指しながら、多くの学校では地域と協働して授業づくりが進められています。その中で特に地域の特産物を扱いながら、社会科や総合的な学習の時間で取り上げて、地域を知る、そして 5・6 年生になれば県を知り、国を知る学びをしていくわけです。小・中学生等の早い時期に、地域資源や本物に触れることで、子供たちは地域を愛し、故郷を愛しむ大人に育っていくのではないかと、それがここでねらっている長野県で活躍する子供たちになるのかなと感じました。

長野県には「地域の子供は地域で育てる」という言葉がありますが、グローバルな視点をもちながらも、「長野県の子供は長野県で育てる」というコンセプトで、産学官が協力体制をとりながらこのプログラム Astra! を運営・計画・実行していくことは、将来の子供たちにとって大きくなって長野県を振り返るよりも、今長野県のよさを体感していくよさがあるのかなと思っています。

広い長野県ですので、小学校 5 年生から中学校 2 年生の全ての子供たちにチャンスがあって体験ができる、そんな仕組みになっていけばいいのかなと思いました。

また、小学校 5・6 年生では英語を学んでいますが、実際に使う機会は限られています。そういう意味では、外で英語を使う体験は、非常に貴重な学びになると考えます。小学校長会あるいは校長会としても、このコンセプトに乗りながらお手伝いできるところはしていきたいと思っています。

（一色学びの改革支援課長）

それぞれの立場からのお話をいただきました三名の皆様、ありがとうございました。子供の話も出ましたが、打ち合わせの際に「このプログラムは児童生徒が休日である土日に実施

するのか」というご質問をいただいております。この点について、本日お集まりの校長会長の先生方、小学校の桂本先生、中学校の牛越先生、支援学校の勝又先生に事前にご相談させていただきました。平日に実施するプログラムについては、参加する児童生徒を出席扱いとする方向でよいかどうかを確認したところ、校長判断にはなりますが、大会参加と同様の扱いで問題ないとのことをご意見をいただいております。こうした点も踏まえ、本日この後、体験に関する日数や実施内容についても、より幅広く検討していただけるのではないかと考えております。

この「Astra」という名前には願いが込められています。アストラはラテン語で「星々」という意味をもち、子供たち一人ひとりが輝く存在であり、星座のように地域・世界・さまざまな人々とつながりながら、長野県の未来を照らす光となってほしいという願いを込めました。

こちらのスライドは、この実行委員会のイメージです。皆様お一人お一人のご意見やアイデアを取り入れながら、目標の達成に向けて新たなプログラムを皆で創っていくことを大切に考えています。

また、このスライドには子供たちの姿も描かれています。将来的には、この事業に参加した子供たち自身が実行委員会に加わり、プログラムを共に創っていく、そんな広がりのある実行委員会を目指しています。

子供たちの未来を、私たち大人が本気で応援する。その思いを共有しながら、今日ここから「Astra!」を一緒に動かしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

4 有識者助言（長野大学 飯塚准教授）

皆さん、こんにちは。長野大学社会福祉学部の飯塚秀彦と申します。これまでのお話を受けて、気付いた点を何点か共有させていただきます。

まず一点目は、阿部知事もおっしゃっていましたが、この実行委員会のように産学官が一堂に会すること自体が非常に画期的であるということです。現在、子供たちが学んでいる学習指導要領（2020年度改訂）には、文部科学省が発行した一般向けリーフレットに次のようなメッセージが記されています。「学校で学んだことが、子供たちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていきたい。」ここで私が注目したいのは「共に創っていきたい」という部分です。大人だけでなく、子供たちも社会の一員として、共に世の中、社会を創っていく存在であるという視点が大切です。こども基本法でも、子供たちの意見を反映することが重視されています。当事者である子供

たちがどんな願いや考えをもっているのかを、私たち実行委員会では大切にしていける必要があります。大人は経験がある分、無意識のうちにバイアスをもってしまうことがあります。子供たちはまだそうしたバイアスが少なく、見えている世界も異なります。その視点を活かすことが重要です。

二点目は「五感で学ぶ」ということについてです。AI 時代において、AI との関わりは非常に重要です。AI は情報を処理できますが、味覚や触感といった五感の体験はできません。たとえば「リンゴが好きか」と AI に尋ねても、それはデータに基づき導き出されたもので、実際に味わった経験とは異なります。だからこそ、子供たちが本物に触れ、五感を使って学ぶことが、これからの AI 時代においてより一層重要になります。学校の学びも進化していますが、学校だけでは学べないことも多くあります。そういう意味ではこの Astra! の事業では、地域の産業や世界に目を向け、五感を使って学ぶことが非常に意義深いと考えます。さらに、子供たちが学んだことを学校にもち帰って共有したり、地域ごとにこうした取り組みが広がっていったりすることも期待されます。この実行委員会が、そうした発展的な議論の場となることを願っています。以上で私からの話とさせていただきます。ありがとうございました。

5 各グループディスカッションの内容

※別紙グループディスカッション記録参照

6 教育長挨拶（武田会長）

皆さん、ありがとうございました。

私は長野県で生まれ育ち高校まで長野県で育ち、大学時代は首都圏で過ごしました。5 年間の日々の生活の中で自分が落ち着かなかったことは、景色の中に山がなく、落ち着かないと感じたことを覚えています。長野に戻って教員を続ける中で、自分は本当に長野県が好きなのだと実感しました。

今日の皆さんのお話を聞いていて、ここにいる皆さんはそれぞれの立場で長野県を愛していることが伝わってきました。

「先が見通せない時代」、「変化の激しい時代」、「解のない時代」と言いますが、そうした時代を作ったのは私たち大人です。それを子供たちに押し付けるのではなく、私たちが子供たちに何を残せるか、何をしてあげられるかを考え残していけたらと思っています。私たち大人ができることを精一杯やるのが、子供たちへの最大の贈り物だと感じさせていただきました。

本日いただいたご意見は、県教育委員会事務局でまとめ、次回に活かしていきます。皆さんのお気持ちの集まりで、子供たちにプレゼントしていけたらと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

7 連絡・閉会の挨拶（田中義務教育指導係長）

ありがとうございました。最後に二点ご連絡いたします。

一点目、次回の実行委員会は、9月9日（火）15時よりオンライン形式で開催予定です。詳細は改めてご連絡いたします。二点目、本日いただいたご意見・ご提案、また発言されなかった方のご意見も含めて、Google フォームを通じて伺います。今後の活動や意思決定の参考とさせていただきますので、率直なご意見をお寄せください。

本日は貴重なご意見・ご提案を多数いただき、誠にありがとうございました。皆様のご意見をもとに、今後のプログラムをさらに充実させてまいります。以上をもちまして、「We Are Astra!」第1回実行委員会を閉会いたします。ご参加いただき、ありがとうございました。